

六甲カトリック教会 教会報



+クリスマスと新年、おめでとうございます

主任司祭 英 隆一朗 s. j.



このクリスマスから聖年（Jubilee Year）が始まった。通常の聖年は25年に1回開催されている。今回の聖年のテーマは、「希望の巡礼者」である。

日本の教会のことを考えても、今の日本社会のことを考えても、停滞しているというか、なかなか未来に希望を見いだしにくい状況の中にいる。イエズス会の現状を他のイエズス会員と話し合っても、何となく暗い話になってしまうことが多い。結局、高齢化と人手不足の問題を解決できないからだ。

そのような閉塞感をもっているときに、聖年のテーマになった「希望」という言葉に出会い、軽い衝撃を覚えた。こういう時代だからこそ、私たちはもっと希望を意識して生きるべきだと思うようになった。2025年の聖年は、希望をキーワードにして歩んでいきたい。

聖年にあたり、教皇フランシスコは2025年通常聖年公布の大勅書を発表された。そのタイトルは、『希望は欺かない』である。この言葉はローマの信徒への手紙5章5節からとられた。5章の初めは有名な言葉が続く。「わたしたちは…苦難をも誇りとします。…苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。」（ローマ5章3-4節）。この箇所をよく黙想してみたい。普通は、「希望」は苦難のないところで、楽観的な将来を予測できるときに使う言葉である。それに対して、パウロによると、希望の出所は苦難にあるというのだ。

私たちが日常生活で苦難に出会うとき、まずは忍耐するしかない。その状況の中で必死に耐えながら、状況が改善していくのを待つ。忍耐する中で、私たちの中に練達が生じてくる。苦難によって磨かれてくる真の宝というものが表れていく。忍耐の中で、私たちの魂が強められ、自我が浄められ、信仰が深まってくる。その中から本当の希望が生まれるというのだ。この希望は欺くことのない確かなものだという。なぜなら、それは、「聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているから」（同、5章5節）というのである。

神の愛があるからこそ、苦難を忍耐できる。神の愛があるからこそ、忍耐からよいものを学び、信仰が強められる。神の愛があるからこそ、苦難を通して、希望を見いだすことができるようになるのだ。聖年の間、信仰に基づく巡礼者として歩んでいこう。

聖年の間、実際の巡礼を行うのが通例の信心業である。ローマの4大バジリカ*1に行き、聖なる扉をくぐるのが定番である。大阪高松大司教区内にも、19教会が巡礼指定教会とされた（神戸地区はたかとり教会、中央協議会HPに詳細あり）。それらの指定教会に行き、ゆるしの秘跡にあずかり、聖体拝領をして、教皇の意向のために祈る（例えば、主の祈り、アヴェ・マリアの祈り1回ずつ）ならば、全免償が受けられる。お体が元気な方は、グループでも、個人でも巡礼にチャレンジしてもらいたい。実際の巡礼だけでなく、種々の信心業が勧められている（『希望は欺かない』7-15番）*2。皆さまにとって、聖年が恵みの年となりますように。

*1ローマの4大バジリカ: 聖ペテロ大聖堂、聖マリア大聖堂、ラテラン大聖堂、城壁外の聖パウロ大聖堂。

*2 教皇フランシスコ、2025年通常聖年公布の大勅書「希望は欺かない」より。カトリック中央協議会のホームページ上で全文公開中。イラストは、「希望の巡礼者」公式ロゴマーク。（注釈: 編集部）

2025年聖年 各教区の巡礼指定教会・聖堂

2025年聖年の間、各教区の司教座聖堂や、教区司教によって指定された教会・聖堂を訪問することで、免償を得ることができます。（詳細は、<https://www.cbcj.catholic.jp/2024/12/17/31097/>参照）。現時点で、各教区から公表されている、巡礼指定聖堂は以下の通りです。

教会によって、巡礼者の受け入れ対応の期間、受け入れ日時、予約要等の条件を設定している場合があります。訪問前に、各自でご確認下さい。（編集部）

<p>【札幌教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌カテドラル北一条教会（北海道） 旭川五条教会（北海道） 釧路教会（北海道） 帯広教会（北海道） 北見教会（北海道） 宮前町（函館）教会（北海道） 苫小牧教会（北海道） <p>【仙台教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台カテドラル元寺小路教会（宮城） 弘前教会（青森） 四ツ家教会（岩手） 大籠殉教地（旧大籠教会）（岩手） 米川教会（宮城） 広瀬川殉教碑（宮城） 野田町教会（福島） <p>【新潟教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟カテドラル新潟教会 高田教会（新潟） 長岡教会（新潟） 山形教会（山形） 秋田教会（秋田） 聖体奉仕会修道院 <p>【さいたま教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> さいたまカテドラル浦和教会（埼玉） 太田教会（群馬） 松が峰教会（栃木） 水戸教会（茨城） <p>【東京教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京カテドラル聖マリア大聖堂（関口教会・東京） 秋津・清瀬・小平教会（東京） 神田教会（東京） 五井教会（東京） 北町教会（東京） 麴町教会（東京） 関町教会（東京） 高輪教会（東京） 調布教会（東京） 築地教会（東京） 八王子教会（東京） 西千葉教会（千葉） 松戸教会（千葉） <p>【横浜教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜カテドラル山手教会（神奈川） <p>【名古屋教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋カテドラル布池教会（愛知） 主税町記念聖堂（愛知） 豊橋教会（愛知） 七尾教会（石川） 輪島教会（石川） 金沢教会（石川）（右上に続く） 	<p>（左列下から続き）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大垣教会（岐阜） 福井教会（福井） 富山教会（富山） <p>【京都教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都カテドラル河原町教会（京都） 丹後教会宮津教会堂（京都） 福知山教会（京都） 奈良教会（奈良） 大津教会（滋賀） 鈴鹿教会（三重） 四日市教会（三重） <p>【大阪高松教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪カテドラル聖マリア大聖堂（玉造教会・大阪） 大阪梅田教会（大阪） 大東教会（大阪） 堺教会（大阪） 岸和田教会（大阪） 泉佐野教会（大阪） 高槻教会（大阪） 相生教会（兵庫） 姫路教会（兵庫） 加古川教会（兵庫） たかとり教会（兵庫） 夙川教会（兵庫） 芦屋教会（兵庫） 和歌山紀北教会 屋形町聖堂（和歌山） 徳島教会（徳島） 阿南教会（徳島） 桜町教会（香川） 松山教会（愛媛） 中島町教会（高知） <p>【広島教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島カテドラル幟町教会（世界平和記念聖堂・広島） 山口教会（サビエル記念聖堂・山口） 米子教会（鳥取） 岡山教会（ディエゴ喜斎記念聖堂・岡山） 津和野教会（島根） <p>【福岡教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡カテドラル大名町教会（福岡） 浄水通教会（福岡） 久留米教会（福岡） 小倉教会（福岡） 佐賀教会（佐賀） 大江教会（熊本） 島崎教会（熊本） 八代教会（熊本） 	<p>【長崎教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長崎カテドラル浦上教会（長崎） 滑石教会（長崎） 出津教会（長崎） 島原教会（長崎） 城山教会（長崎） 三ツ山教会（長崎） 中町教会（長崎） 馬込教会（長崎） 岳教会（長崎） 相浦教会（長崎） 三浦町教会（長崎） 神崎教会（長崎） 平戸ザビエル記念教会（長崎） 田平教会（長崎） 木ヶ津教会（長崎） 青砂ヶ浦教会（長崎） 桐教会（長崎） 江袋教会（長崎） 福江教会（長崎） 井持浦教会（長崎） 打折教会（長崎） 大山教会（長崎） 貝津教会（長崎） 土井ノ浦教会（長崎） 山田教会（長崎） <p>【大分教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大分カテドラル大分教会（大分） 別府教会（大分） 野津ルルドの丘（大分） 宮崎教会（宮崎） <p>【鹿児島教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿児島カテドラル ザビエル教会（鹿児島） 名瀬聖心教会（鹿児島） 母間教会（鹿児島） <p>【那覇教区】</p> <ul style="list-style-type: none"> 那覇カテドラル開南教会（沖縄） 名護教会（沖縄） 宮古島平良教会（沖縄） 石垣教会（沖縄） <p style="text-align: right;">（2024年12月18日時点）</p> <p>上記URLに、巡礼者対応が示されている教会もあります。予約が必要な場合もあります。事前にご確認ください。</p>
--	---	---

2025年聖年 公式聖歌 “Pilgrims of Hope” 「希望の巡礼者」を 歌いましょう！

この曲は神学者であり、音楽家でもあるピエアランジェロ・セケリ教授によって作詞されました。そして、曲は公募され世界38カ国から270人の応募があり、イタリア・パドヴァ出身のフランチェスコ・メネゲッロのものが採用されました。今年にはたびたび教会のごミサで歌うことになるでしょう。

Like a flame my hope is burning, may my song arise to you: Source of life that has no ending, on life's path I trust in you. (Andrew Wadsworth 英訳)	希望の光、神よ、 あなたに歌います。 尽きぬいのちの泉、 あなたを信じます。(繰り返し部分) (日本カトリック司教協議会訳)
--	--



希望の炎を燃やしなが、巡礼者として歩いていきましょう。
アウグスチヌスが「歌う人は倍祈る」と書いていることは有名です。
世界のひとと声を合わせて、希望を持って歌いながら歩いていきたいと思
います。

◎上の QR コードを読み込むと、英語の歌詞でメロディーが歌われます。

日本語の訳詞は、カトリック中央協議会のホームページ上でご覧になれます。

(六甲教会オルガン奉仕者 三浦 優子)

大阪関西万博にバチカン展出展へ:26 聖人掛け軸を展示 ～活動にご寄付を～



この愛らしい少年は、26 聖人の一人、聖ルドビコ茨木です。日本の 26 聖人は 1597 年、豊臣秀吉の命令により長崎で磔刑(たっけい)に処された 26 人のカトリック信者のことで、最年少は 12 歳のルドビコ茨木でした。彼らは、大阪堺で市中引き回しのあと、徒歩で長崎に連行されましたが、日本でキリスト教の信仰を理由に処刑が行われたのは公的には最初のことでした。

その後、彼らは教皇ピオ 9 世により 1862 年に聖人とされました。彼らの姿は日本画家の岡山聖虚 [1895～1977] が 15 年の歳月をかけて等身大の掛け軸に仕上げ、教皇ピオ 11 世に献呈されました(1931 年)。バチカンに寄贈されたこれら 26 幅の掛け軸は、100 年近く経った今、劣化が進んでいます。それらを修復・再生して、日本での里帰り展示を目指して、(一般社団法人; 一社) 26 聖人聖画等プロジェクト(代表理事: 前田万葉枢機卿)が活動しています。

幸いにもバチカン美術館からこの 26 聖人画の貸出し許可が得られ、修復費用、日本への往復運搬費、日本各地での展示管理費用などに、浄財を募りたいということになりました。

以下に振込先を記しました。(写真、本文は、リーフレットより抜粋)

一般社団法人 26 聖人聖画等プロジェクト

〒852-8116 長崎市平和町 11-19-206 電話 095-807-5646

Email: 26martyrsp@mxh.cncm.ne.jp

振込先 三菱 UFJ 銀行 長崎支店 普通預金 0866639 (一社) 26 聖人聖画等プロジェクト
十八親和銀行 浦上支店 普通預金 5013859 (一社) 26 聖人聖画等プロジェクト

第 5 回地区役員会議事録

日 時：2024 年 11 月 30 日(土)10:45～11:30

場 所：第 1・2 会議室

参加者：堤 小教区評議会議長、地区役員

1. バザー報告：バザー企画グループ

地区会主催ではなく初めての試みの個人出店を募ったミニバザーを開催。個人出店 23 件、ワークショップ 4 件に上り大盛況であった。地区会は、地区役員にボランティアを募り、お寿司、おにぎり、コーヒー等を提供した。

ワークショップは、出店者と参加者が共に触れ合う場でもあった。軽食が早くに売り切れたので、来年は軽食メニューを増やした方がよいと思われる。また、2 時には殆どの商品も売り切れたので、次年度は終了時間を午後 2 時過ぎとしてもよいかもしれない。ボランティア団体の総収益は 546,471 円、個人出店の教会への献金は 340,849 円であった。この個人出店の教会への献金は、カリタスジャパンを通じて全額を能登の災害支援に充てることが小教区評議会で決定した。

2. 検討事項

1) 新年会開催 1/12(日)

担当は灘西・中央地区とする。新年の祝い、新成人の紹介、ゲーム等を企画し、新年会を開催する。予算 15 万円

2) 教会行事予定表・連絡網配布日程

- ・ 3/1(土) ～ 各地区・ブロック袋詰開始
 - ・ 配布日程 3/15(土) 3/16(日) 3/22(土) 3/23(日)
- 詳細は、2/9(日)地区役員会にて決定する。

3) ご復活お祝い会 4/20(日)

地区会全体主催で開催。料理等は女性地区役員、レイアウト設置等は男性地区役員が主に担う。

3. イグナチオ喫茶当番

12/1 灘南・神戸西 2/2 東灘北 2・芦屋 3/2 東灘北 1

4. その他

1) 地区会再編について

下記内容を 2025/1/5(日)開催の小教区評議会に地区会から提案することになった。

- ①地区会の役割分担低減と地区役員の後継者不足により、現行の 7 地区の最低役員数 3 名を、最低 2 名に変更する。
- ②地区会再編を 2025 年度中に検討することとし、教会全体としての具体的な進め方を小教区評議会にて協議し決定してもらう。
- ③ ①～②決定内容を地区役員に直ちに報告する。

2) 地区役員交替の報告

2025 年度の地区役員交替の報告は、2025 年 1 月 31 日(金)までに堤小教区評議会議長と井川地区役員代表の両名に連絡すること。

以上

次回第 6 回地区役員会 2025 年 2 月 9 日(日)11 時半より 第 1・2 会議室

教皇1月の祈りの意向は、「教育を受ける権利」です。次のように祈りましょう。

「より良い世界を築くために必要不可欠な教育を受ける権利が、移民、難民や戦争の影響を受けた人々に対しても、常に尊重されますように。」

2025年行事予定、お知らせ等

阪神淡路大震災 30周年ミサを神戸中央教会で

大阪高松大司教区神戸地区では、30周年を迎える「阪神淡路大震災」の追悼ミサを神戸中央教会で行います。

日時：2025年1月17日（金）10時より。司式は前田万葉大司教。

映画「壊れた5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び」

日時：2月2日（日）11：30～ 上映時間90分 カラー・白黒

場所：第1、第2会議室（信徒会館2階）

神戸地区社会活動委員会主催の学習会で、今回は六甲教会が会場となりました。戦争が今もなお続く中近東で、パレスチナがなぜこのような状況に至っているかを知るうえで、非常に貴重なドキュメンタリー作品です。この機会に多くの方に現地の実情を知っていただき、共に考えるきっかけになればと思います。

◎上映開始時刻までの待ち時間にイグナチオ喫茶をご利用下さい。各自持参された昼食を、そこで召し上がることができます。お茶をご用意しています。

ハラスメント調査対策委員会が活動開始

教会報11月号にてお伝えしましたハラスメント調査対策委員会は、教会法に基づく主任司祭の権限により、12月より活動を開始しました。

これは、あらゆるハラスメントのない、信者等が安心して活動できる環境を作っていくために設けられたものです。

活動開始にともないハラスメント相談受付窓口を以下のとおり設置します。

◆相談受付：教会事務所の開所日の時間内に以下のいずれかに直接ご連絡ください。

- ・主任司祭
- ・助任司祭
- ・教会事務所窓口

*相談受付後、担当者から委員会に連絡し、面談へと進めてゆきます。

◆主任司祭による研修会を予定しています。

3月16日（日）10時ミサ終了後に行います。関心のある方はご参加下さい。

詳細は教会報2月号でお知らせします。

社会活動部 今月の予定

1月11日（土）10時半 炊き出し 小野浜グラウンド（中央区小野浜町3）

・一緒に車で行かれる方は、六甲教会に10時集合。

その旨、教会事務所に事前に連絡して下さい。

・手芸の集いと、ともしび会は1月はお休みです。

写真は、ともしび会がクリスマスに児童養護施設に届けたショートケーキ。



《 図書室からのお知らせ 》

・2024年秋に、信徒から図書室に頂いた本を紹介します。

- ☆ **ありがとう、あなたへ** 阿南慈子(著) 思文閣出版
・1955年幼児洗礼(2歳時)、81年結婚。一男一女の母となるも、31歳で難病の多発性硬化症と診断、33歳で失明。首から下の感覚を失いながら、ボランティアの口述筆記で詩、エッセイ、童話を書く。46歳で帰天。
- ☆ **生きるためのひとこと** 晴佐久 昌栄(著) 女子パウロ会
・ふだん何気なく使っている言葉「はい」「行ってきます」「ごめんなさい」「どうぞ」など、その一言に込められた奇跡の力。著者初の書下ろし。
- ☆ **それでも人生にイエスと言う** V・E・フランク(著)/山田邦夫・松田美佳(訳) 春秋社
・ナチス強制収容所から解放された翌年、ウィーンの市民大学での講演の翻訳。
- ☆ **風の天主堂** 内田洋一(著) 日本経済新聞出版
・祈りの島々にひっそり佇む教会群―隠れキリシタンの末裔によって建てられた聖堂を探訪する歴史紀行エッセイ
- ☆ **今日本でカトリックであることは？** 光延一郎(著、編集) サンパウロ
・上智大学神学部 夏季神学講習会講演集。
- ☆ **日本の教会の宣教の光と影 ～キリシタン時代からの宣教の歴史を振り返る(真正会館シリーズ)**
森 一弘(企画・監修) サンパウロ
・執筆は、森 一弘司教、溝部 脩司教、オリビエ・シェガレ神父、大田淑子ほか。
- ☆ **キリスト教入門** ラッテンガー(著)/小林珍雄(訳) エンデルレ書店(1973年刊)
・著者ラッテンガーは教皇ベネディクト16世としても知られる神学者。第二バチカン公会議で活躍。
- ☆ **ミサ 神の愛の確認 ～不安から希望へ～** インドロ・リバス(著) 新世社
・ミサの理解と実生活のつながりを求め、生かし続けましょう。

*皆様方の図書室をさらに使いやすくするために、どうしたらよいか、お気付きの点をお知らせ下さい。
図書室入口の投書箱または教会事務室まで。

園芸だより

皆様、年々様変わりしている教会のお庭の様子はいかがでしょうか。お手入れ中には色々な方からお声を掛けていただき、花壇を見ていただいていることを実感して嬉しくなります。

池は芝生に変貌し、信徒会館前花壇に植えられていたオタフクナンテンは駐車場西側に移され、その後植えられたジギタリスが夏には存在感を示しています。小聖堂入り口前の花壇はセージから多肉植物の花壇に生まれ変わりました。多肉植物とは、葉や茎根に水分を貯められる多肉質の植物の総称です。砂漠や海岸といった極度に乾燥した環境や塩分の多い土地で生き抜くために適応した植物と考えられています。丸みのある



プクツとした見た目と魅力があり、私は育ててみたいと熱望しました。しかし私にとって初めての地植え花壇経験で、気温が変化する中で美しさを保つために試行錯誤しました。春頃に赤や黄色の花を咲かせる種類や、秋頃に紅葉が始まる種類があり、紅葉の色や濃淡は種類によって様々です。このように一年を通して色の変化も楽しめるのも、多肉植物の魅力の一つだと思います。先輩方が受け継いでこられた植物と共に新しい植物を取り入れることで風景が変わり、また違った花壇を楽しんでいただけたら幸いです。



そして昨年より剪定によって摘んだ花をドライフラワーにして、リースやブーケの制作を始めました。園芸系の皆が各々自分の感性のままに仕上げるリースやブーケは、個性が光る作品となっています。摘まれた花が形を変え、また皆様に喜んでもらえることで、さらにやり甲斐を感じる事ができています。

(施設管理部園芸係 島本 郁子)

私の好きな聖書のことば

「いつも喜んでいなさい」

(テサロニケの信徒への手紙 5章16節)

マルティヌス 高木 昌要



体調を崩し半ば療養しながら大学・大学院時代を過ごしていたとき、なぜか自然と、祖母のそばにいと明るい気持ちになりました。「いつも喜んでいなさい」は、クリスチャンではなかった祖母に教えられたと言ってもいいと思います。この言葉自体は、教会の方から教えていただきました。さらに、「この世はよくできているから、いつだって何か楽しみにしてられるのよ」。これはある著名な哲学者の母親の言葉だそうです。またある作家は自らの母親から「朗らかで打ち解けやすい性分を授けられた」と述懐しています。私も母から似たような影響を受けました。

聖句は、「いつも喜んでいなさい」に続けて「絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」とあり、それを心に刻んでいます。

世界や日本の暗いニュースを聞くと、私は、すべての人、特に女性がこの世の素晴らしさを常に実感し、私の祖母や母のように周りに伝えることができるようにと、祈らざるをえません。ちなみに聖句から私が受け取るニュアンスとしては「いつも喜んでいなさい」のあとに、ニコニコマークの絵文字が付くとしっくりくる感じです。

カトリック社会活動神戸センターから 毛布・寝袋のお礼

今シーズンも、みなさまより毛布・寝袋等のご寄付をいただきありがとうございます。

地球温暖化どころか「沸騰化」といわれ、記録的な猛暑となった今年でしたが、しっかりと寒い冬が到来しました。炊き出しをしても夜回りをしていても寒さが身に染みるようになり、毛布や寝袋の提供の機会や枚数も増えてきています。

まもなく震災より30年を迎えます。震災の頃は、いったん居宅を失い「ホームレス」の状態になると、役所では生活保護の利用を受け付けないという状況でした。「ホームレス」だと、救急車すら断られるということも日常茶飯事でした。

そうした状況は、私たちも含めて様々な取組みやはたらきかけの積み重ね、全国的な「反貧困」の声の高まりの中で、30年を経て大きく変わりました。

それでも、野宿で過ごさなければならない時に、居宅生活は決まったものの家財道具も寝具も何もない状態から再出発しなければならない時に、みなさまからお寄せいただいた毛布や寝袋を大いに役立たせていただいております。

寒い折には1枚1枚が命綱ともなる毛布や寝袋、本当に多くのご寄贈をたまわり、また、あたたかいお心をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

木谷 公士郎 (カトリック社会活動神戸センター)



《 教会大掃除 》

11月30日(土)に、年に一度の教会大掃除が行われました。地区会が当番で毎週掃除を行い、落葉の季節になると有志の方が落葉掃除をされていますが、大掃除は普段なかなかできない所を中心に行います。排水溝の中、窓ガラス、聖堂の棧、屋上、教会周辺の道路などです。大きなゴミ袋が落葉でいっぱいになりました。9時に開始し30名ほどが集まり、10時半頃に終了しました。最後は、コーヒブレイクで解散しました。ご協力頂きました皆様ありがとうございます。(地区会役員代表 井川直哉)



司祭バンド "Amens" 熱演!

クリスマス チャリティーコンサート



冬晴れの12月7日、土曜日、神戸地区社会活動委員会(シナピス神戸)主催の第16回目のクリスマスチャリティーコンサートがカトリック神戸中央教会で13時から行われました。

このコンサートは、野宿者の方々に、炊き出しをしたり、路上でのおじさんたちの安否を気づかって夜回りされているカトリック社会活動神戸センターを支援するためのチャリティーコンサートです。活動センターは神戸中央教会の敷地内にあります。

コンサートの出演者は神戸地区小教区から応募されたボランティアの人たちで、曲のジャンルは様々ですが、主にクリスマスに因んだ素敵な曲が、ステンドグラスを通して差し込む光で色彩豊かに照らされた聖堂の中で繰り広げられました。どの出演者も、野宿者や生活困窮者のことを思い、心をこめて一生懸命演奏されました。



コンサートの最後を飾ったのは、神戸地区で働いている司祭たちの即席バンドで、バンド名は「司祭バンド "Amens"」。司祭の国籍は韓国、フィリピン、コンゴ、日本。年齢は30代から80代まで。六甲教会からは、英 隆一郎主任司祭と、渡辺徹郎助任司祭が参加されました。(写真右端が英神父、右から3番目が渡辺神父)。ギター、ピアノ、韓国の楽器などのBGMに合わせて"Christmas is"や"My sweet Lord"などが熱演されました。歌と楽器は苦手だとおっしゃっていた英神父さまも、曲が流れだすと体がスウィングし、なんと手話でダイナミックに歌詞を表現されているではありませんか。

フィナーレは、出演者と観客が一体となって"Believe"を歌い、続いてシナピス神戸の指導司祭である英神父さまの終わりの言葉「寒い冬はこれからです。野宿者、生活困窮者のためにみんなで祈って、支援していきましょう。」と締め括られました。そして、マリア様の執り成しを願ってお祈りし、解散となりました。聖堂の外で準備されていた炊き出しの美味しいスープを味わいながら歓談し、身も心もあたたまって幸せな気分で家路に向かいました。

集められた献金は、その日のうちに、活動センター長の木谷公士郎さんに渡されました。(社会活動部 井川 伸子)



コーラス部の “訪問コーラス“



コーラス部は12月17日の午後、老人ホーム「グランダ御影山手」を訪問しました。実に5年ぶりでした。施設の方々はほとんどが女性で、90歳前後とのことです。5曲歌いましたが、観客の方々はみなさん楽しんで聞いて



くださいました。「川の流れるように」のときには、一緒に口ずさんでおられる方もありました。歌を聞いて、少し涙ぐんでいる方もおられて、「本番に強い」コーラス部の本領発揮でした。

最後に「きよしこの夜」をみなさんと一緒に歌ってお開きになりました。訪問翌日には、施設職員の方からお礼の言葉と共に、クリスマス以外でも歌いに来て欲しいと言われました。選曲は昭和歌謡がいいことや、やはり美空ひばりさんの歌が人気のようです。（北上千恵子）

“クリスマス音楽の集い“を開催



12月22日、今年も「クリスマス音楽の集い」が行われました。もう10年以上続くこのコンサートへは他教会や近隣住民などのリピーターもおられ、教会内外のお客様250人余と時間を共にしました。



フルート、声楽、バイオリン、ギター、オルガンと多彩なプログラムが、六甲教会音楽奉仕者と六甲教会信徒のご家族によって演奏されました。また今年初めての試

みであるギターの弾き語り「ハレルヤ」には、聖堂に響く静かなギターの音色と歌声に一同が耳を傾けました。そして最後に聖歌隊が登場し、男女年齢問わず、40名あまりのメンバーが心をつなげてクリスマスキャロルを歌いました。最初は緊張していたメンバーの顔が徐々に笑顔になり、歌い終わると大きな拍手が起きました。

今年の寒く多忙なこの時期に、皆様と一緒に一足早いクリスマスをお祝いできたということに感謝しています。皆様からお寄せいただきました、ガザ人道支援募金は108,586円集まりました。皆様の気持ちをカリタスジャパンを通じてお送りします。また来年のクリスマス音楽の集いでお会いしましょう！！（典礼部音楽チーム 清水真理子）

教会学校の子どもたちがキャロリングと街頭募金

12月24日（火）、教会学校の子どもたちと渡辺徹郎神父さま、保護者の皆さん、聖歌隊有志が付き添ってJR六甲道駅前に集い、午後3時から、練習してきたクリスマスソングを、声を合わせて歌いました。曲目は、「しずけきこの夜」「もろびとこぞりて」「あめのみつかい」「サンタが町にやってくる」など、誰もが耳にしたことのある曲です。また、「大きな愛」は教会学校で何度も歌ってきた曲。一番元気よく歌うことができました。



クリスマスイブとはいえ、まだ午後の時間が早いこともあり、駅前を歩きかう人はそれほど多くはありませんでしたが、中には足を止めて耳を傾けてくださる方もちらほら。募金活動では、子どもたちが3手に分かれて、声を張り上げて寄付のお願いをしました。

この募金も、ガザへの人道支援に使わせていただくことになっており、用意してきた募金趣旨の文章を代わる代わるマイクを握って読み、通行人の皆さんに協力を訴えかけました。活動は4時過ぎに終了し、5時からの教会での主の降誕ミサに与りました。

写真は、おそろいの赤いケープがかわいい子どもたち。

・東ティモールで活動する浦 善孝神父より、聖イグナチオ学院生徒のための奨学金の寄付の依頼が届いています。浦神父からの手紙等、詳細は聖堂前の風防室に掲示してありますので、ご一読ください。

**引き続き、東ティモール・聖イグナチオ学院の生徒に
奨学金のご寄付をお願いいたします**
Escola Jesuita, Colégio de Santo Inácio de Loiola, Timor-Leste

聖イグナチオ学院基金
現地世話人 イエズス会 浦 善孝
2024年8月11日

東ティモールは1974年にインドネシアに占領された後、2002年に独立した人口130万人の南洋の小国です。独立戦争に際しては約20万人が死亡・行方不明になりました。現地世話人の浦は、2012年にイエズス会日本管区から東ティモールに派遣され現在に至っています。その荒廃からの復興を目指す教育プロジェクトである聖イグナチオ・デ・ロヨラ中学校高等学校に、六甲教会様から継続して多大なご援助を頂いておりますこと、こころから感謝してお礼申し上げます。ありがとうございます。

昨年2023年度は、在校生約830人のうち27名の生徒たちは六甲教会様から頂いたご寄付で六甲教会奨学金を受けて聖イグナチオ学院で学ぶことができました。学費とは別に、奨学生たちは通学カバンや靴を買うための費用（100米ドル）、高校3年生には別途卒業式に着る洋服代（50米ドル）も頂いております（東ティモールの通貨は米ドル）。年に1度、奨学生とその家族が集い奨学金を送ってくださっているかたがたに感謝するミサを捧げ、その後一同が集い一緒に食事をして歓談していますが、そのために奨学生1人当たり（家族を含めた）11米ドルの食費も頂いております。

六甲教会様から頂いた奨学金のご寄付

年度	ご寄付の金額	奨学生の人数
2018年	¥1,860,000-	31名
2019年	¥1,500,000-	30名
2020年	¥1,395,000-	31名
2021年	¥1,457,000-	31名
2022年	¥1,410,000-	30名
2023年	¥1,741,365-	27名

聖イグナチオ学院の学費（1年分）2024年度

学年	学費（授業料+制服諸経費等）
中学1年	US\$37100
中学2年	US\$337.00
中学3年	US\$367.00
高校1年	US\$411.00
高校2年	US\$372.00
高校3年	US\$447.00

2021年度には200,000円を洪水コロナのために別途受領

本校は私立学校なので学費が必要ですが、当初から「学びたいすべての子どもたちが、貧富の隔たり無く共に学ぶことができる、きちんとした学校」（SDGs 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保する」）の東ティモールにおけるパイロット・スクールになることを目標としてきました。そのために貧しい家庭からの子どもたちの本校への就学支援を積極的に行い、その多くは日本の皆様からの「聖イグナチオ学院基金」宛のご寄付で賄われて参りました。しかし同時に、私が東ティモールに来たときは1ドル80~90円でしたが、今は円安で米ドル建て送金の際相対的に費用が嵩みに困っています。

（次頁に続く）



写真は左から「体育館で音楽の授業 ギターの練習」「山間部のチャペル(巡回教会)でミサ」「高校1年生の授業 体操服登校日」

前頁より続き（以下は、2024年に浦神父さまから英主任司祭に届いた手紙より抜粋、編集）

…今年で7年目を迎える六甲教会様からの聖イグナチオ学院の生徒のための奨学金支給をお願いしたく、お手紙を差し上げております。六甲教会様の活動も多々あり、また活動方針もあると思いますが引き続き今年も六甲教会様にご支援をお願いいたしたく、ご検討いただければ幸いです。

・・・2024年度は2名が中学1年生のときから現在の高校3年生まで六甲教会様から奨学金をいただき、高校を卒業できる見込みです。上智大学への留学生1名(Jania Oriena Maia Martins)は、9月に学部卒業予定ですので、Jania宛の生活費援助は9月分で終了していただけますようお願いいたします。長きに亘って当上智留学生への経済的ご支援を賜れましたこと、あわせてお礼申し上げます。昨年は27名の奨学生の奨学金をお願いいたしましたが、今年も同じく27名の生徒の奨学金をお願いいただければと思います。

今後、ご援助いただきたい奨学金(2024年度)

1. 奨学生27人 US\$13,347.00- (日本円 2,006,100円。1米ドル150円換算)
2. 一人当たり平均74,300円×27人=2,006,100円 (学費+制服+洋服や靴などの補助も含む)
*円安のためお願いする総額が昨年よりも高くなっています。
3. 合計2,006,100円の奨学金となります。(昨年2023年は1,741,365円のご寄付を頂きました)。

ご援助をお願いする額が大きくなり、大変厚かましいお願いで恐縮しております。可能性をご検討いただき、何らかの形で援助をいただけますようお願い申し上げます。

主の降誕(日中のミサ)で洗礼式 ～新たにお二人が私たちの仲間に～



12月25日、主の降誕ミサ(日中のミサで)、洗礼式が行われました。受洗されたのは、山中明子さんと、森田 正さんのお二人。増井 啓神父様の「キリスト教入門講座」で勉強を続け、洗礼のお恵みをいただけることになりました。

写真左端は山中大樹神父様(イエズス会)。実は左から3番目の山中さんの御子息とのこと。このようにご自分の息子から初めての御聖体をいただけるのは、ありがたいことだと思われました。

(編集部)

ミニコンサート～主の降誕によせて～ 12月25日



主聖堂において、ミサ終了後に行われたミニコンサートは、六甲教会オルガン奉仕者 熊澤加代さんによる「L.C.ダカンのノエル10番グランジュとデュオ」、また、声楽アンサンブルチェルレウム・マーレによる「今日、キリストが生まれた」「天使が乙女のもとに遣わされて」「久しくまちにし」「世の人忘るな」「ひいらぎ飾ろう」「きたれ友よ」など馴染みの曲が歌われました。「きたれ友よ」では、会衆も唱和し、短い時間ながらも主の降誕のお祝いにふさわしい、豊かな時を過ごすことができました。



写真はチェルレウム・マーレの皆さんと熊澤さん(右から3人目) (編集部)

【2025年1月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			神の母 聖マリアミサ 7:30 10:00	世界平和の日	初金曜日ミサ 7:00	
5	6	7	8	9	10	11
主の公現 手話付きミサ 10:00 小教区評議会 11:30					◎灘南・神戸西	教会学校始業式 餅つき 社会活動部 炊き出し クリスマス飾り の片づけ 13:00 ◎土曜班
12	13	14	15	16	17	18
主の洗礼 新成人の祝福 10時ミサ中 ミサ後新年会	教会事務室 休み				阪神淡路大震災 30周年ミサは、 神戸中央教会にて 10:00 ◎灘西・中央	キリスト教一致 祈祷週間 (~25日)
19	20	21	22	23	24	25
年間第2主日 典礼部会 13:00					◎定期清掃	使徒聖パウロの 回心
26	27	28	29	30	31	
年間第3主日 (神のことばの主日) 子どもとともに捧げ るミサ 10:00	世界こども助け合いの日				◎東灘北1	

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

新年おめでとうございます。聖年の扉が開かれました。聖年は2026年1月6日まで続きます。この間、旅行を計画される場合、巡礼指定教会への訪問も組み入れられるのはいかがでしょうか。（N.O.）ver1.2

訂正 12月号「みんなの広場」で岩田聖代さんの洗礼名は、マグダラ マリアではなく、マルガリタ マリアでした。

次回2月号の発行は2月1日（土）です。
原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参
いただくか、FAX、メールでお願いします。

(renraku@rokko-catholic.jp)

皆さまからのご寄稿をお待ちしています。
・教会 SNS チームは、フェイスブック、インス
タグラム、X（旧ツイッター）、YouTube チャン
ネルで配信しています。「六甲カトリック教会」
で検索してみてください。

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

<http://www.rokko-catholic.jp>

発行責任者 英 隆一朗

編集 広報部